

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立宮古工業高等学校
校長 喜納 兼信
(公印省略)

令和7年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和7年12月5日付け教展第1750号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

回数	日時	場所	出席状況
第1回	R7.7.6	2階会議室	4名
第2回	R7.12.10	2階会議室	3名
第3回	R8.3.10	2階会議室	3名

2 学校評議員に求めた事項

第1回の会議において、学校長が掲げた今年度の教育目標や学校経営方針とともに本校の抱える学校課題を共有し課題解決に向けての協力や意見を求めた。令和6年度から「平和講話」「マース袋配布」「まもる君化粧直し」等を通して、地域の方々へ工業高校の教育活動を積極的に発信しており、魅力発信してきているが、未だ本校の優先課題は空き定員の解消である。今後も宮古地区の唯一の工業高として理解をしてもらえるよう本校の教育活動の発信を続けていく。また、入学した生徒達の資格取得や各種大会への参加とともに、令和5年度よりスタートした「サポートルーム」も軌道に乗り、個々の生徒に合わせた教育活動・支援を充実させている。これまでの本校の情報発信や生徒支援・進路指導体制についても、ぜひ評議員の方々のお力添えとご教示を頂戴し、今後に活かしていきたいと考えている。

3 学校評議員の意見

○進路で外部機関との調整があるが、そのほとんどが島外企業となっており、島内の企業がほぼない状況である。地元企業との協力が得られていないのが現状で、情報があまり共有されていない部分があるのではないかと。また、「防災士」の資格も取得しており、一時避難所として指定されている学校と情報を共有していきたい。
○進路カフについて、とても良い取り組みなので、中学校、保護者と連携してほしい。また、教育事務所、中学校との校長会を復活させた方がいい。
○中学校がコミュニティスクールへシフトしていく動きがある。特色ある学校づくりをするため、体験する機会をもう少しほりさげる等、小学校、中学校を含めて連携が必要で、「何を学びに学校へいくのか」考えさせる工夫が必要。SNSの問題については、専門的な部分もあるが、しっかりとしたモラルをもって、生徒も大人も「ダメなものはダメ」という体制づくりが必要ではないか。
○体育祭練習における騒音の苦情について、団地の役員を招集し、日中における在宅状況のアンケート調査を行った。団地住民からは、体育祭練習について批判的な話はなく、むしろ楽しみにしている。
○学校評価については、保護者の意見がたくさんありとてもいい事である。この意見をPTA総会等で活用する等、保護者と信頼づくりに活用してはどうか。
○工業の志願者が少ない。子供の数が減っていることもあるが、工業を受験するメリット、デメリットをアピールしていく必要があるのではないかと。また、意見として、身なりについては制服の着用が望ましい。
○昨年度は団地でたむろしてタバコを吸っている生徒は居たが今年度はいない。最近バイクの騒音がうるさい

4 学校運営に反映した事項

○中学校の先生とディスカッションをした結果、関心の高さが宮古高校、宮古総合実業高校、宮古工業となっており、普通高校への志向が強い。勉強をする生徒と、しない生徒の格差が広がっている。体験学習を取り入れ、中学校の先生にも説明を強化し、私立大学への進学、専門学校、就職へ力をいれて取り組んでいる。学校では、いろんな事が起こり学校だけでは教育はできない。地域と連携を強化し、できる事を一つ一つ全職員で取り組んでいる。
○今年のテーマは「キャリア」で、学校の取り組みをスクリーン、インスタ、ホームページを活用し、配信している。生徒指導の件数もしっかり指導を行った結果、増加となっている。便利なスマホが凶器となり、SNSの取扱いが難しく学校運営に支障をきたしている。
○体験入学でアンケート調査を実施し、「他の学校を落ちた生徒が行く学校のイメージ」があり、宮古島は、農業、漁業で成り立っている島で、生徒が就職の概念がないように感じる。中学生は、「就職させられる」というイメージがあるのではないかと。「就職するという感覚がない状況」を「進学できるイメージ」へ変えていく必要がある。本校のイメージとして「男性だけが行く学校のイメージ」、「実習が難しそう」、「交通の便が不便」等、悩んでいるところであるが、インスタをたちあげて、取り組んでいる。

5 課題その他

○今年度、女子バスケットボールがスタートし、ミニバスケットチーム他中学校チームを招いての練習試合、イベントなどを組んだが工業という特色を女子に敬遠されたり、合同チームで指導者から指導を受けられるという理由からか総実に流れてしまった。中学校側に資格取得・就職に有利というアピールを行ってきたが、中学生には就職させられるという意識が強いのか刺さることができなかった。次年度はミニフェス開催など学校生活の楽しさと工業教育の楽しさを同時に発信していく。